

早期胃がんを切らずに直す方法 進化した低侵襲治療

ESD

内視鏡下粘膜下層切開剥離術

早期胃がんの治療

胃がんの標準治療が手術療法であることは今も昔も変わりません。しかし近年の内視鏡治療の進歩により、粘膜内にとどまる早期胃がんであれば、おなかを切らずに内視鏡的に切除できる可能性が出てきました。内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)という方法で、内視鏡の先端から針状の電気メスを出して、腫瘍の下を少しずつ剥離していくというものです。従来もEMR(内視鏡下粘膜切除)という方法がありましたが、一括切除できる範囲が小さく、がんの取り残しの評価が難しいなど問題点がありました。ESDはEMRとは違い、大きな病変でも一括切除することができて、取り残しの評価がしやすいという利点があり、内視鏡で切除できる適応がひろがりました。つまり、おなかを切らずにがんが治る可能性が増えたのです。

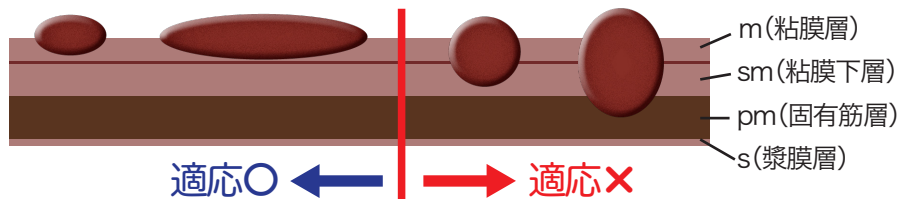


図1

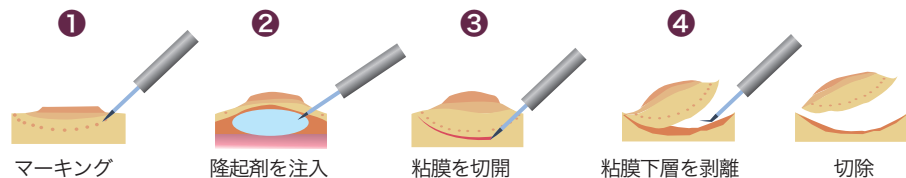


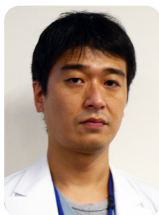
図2

ESDの適応と方法

治療対象は腫瘍の深さが粘膜内にとどまる早期胃がんで、(その他、腫瘍の大きさや細胞の性質などにより規定されています)方法は①病変の周りをマーキングします②粘膜下層に液体(隆起剤)を注入して切除部分を浮かせます③マーキングの外側で高周波ナイフを使って粘膜を切開します④粘膜と粘膜下層の一部を剥がして切除完了です。切除部分は人工的な胃潰瘍になりますが、時間とともに治癒します。手術と比べて低侵襲のため1週間前後の入院で済むという利点が魅力です。

※ESDの適応は原則的に胃癌学会の治療ガイドラインにより決定されます。

その適応条件に合わない場合には、従来通り手術療法を行います。



外科医長
相馬 大介

専門分野: 消化器一般外科
群馬大学1999年卒業、医学博士
資格: 社団法人日本外科学会認定指導医・専門医・認定医、
有限責任中間法人日本消化器外科学会認定専門医

ご予約・お問合せはこちらへ

電話予約
04-7123-5901
月曜日～土曜日 9:00～16:00
ただし、祝日および病院指定休診日を除く


kikkoman

キッコーマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>